



2025年04月23日（水曜日）長野県林業大学校の屋久島研修に同行

4月23日（水曜日）に長野県林業大学校1学年20名に対し、安房貯木場において屋久島森林管理署の黒安技官が屋久杉や土埋木の説明等を行いました。

学生には国有林から搬出された土埋木や過去に加工された平木（屋久杉を短冊形の屋根材に加工したもの）を見てもらいながら、屋久杉を取り巻く過去の歴史から現状について説明を行うとともに、現在収穫期を迎えている地杉の生産・販売についても説明を行いました。その後、春牧森林事務所に移動し、樹齢1,600年の屋久杉円

盤の見学や架線集材の様子を映像で見ながら解説をしました。

初めて見る土埋木に学生は興味を示し、価格や原木から加工品への工程など熱心な質問が多数ありました。

最後に、同校の卒業生でもある当保全センターの塩澤主事より、世界自然遺産地域における森林生態系保全にかかる業務等の紹介を行い、これから森林・林業に対する知識をさらに深めていただきたいとエールを送りました。



土埋木の説明をする黒安技官（左）、地杉の生産販売も説明（中）、業務等の紹介をする塩澤主事（右）

2025年04月03日（木曜日）令和7年度の重点取組事項

当保全センターでは、以下の業務について重点的に取組を進めます。

森林環境教育等の場の整備（弥生杉倒伏後の整備）

令和6年8月末に襲来した台風10号の影響に伴い弥生杉が倒伏し、その取扱いについては、検討委員会を設置し議論・整理を行い、その姿や倒伏後の植生の変化などを後世に伝える森林環境教育の場や観光資源として活用するため、基本的にそのままの状態にて現地に保存。

森林環境教育の場として活用できるベース資料の作成や看板等の設置を行い、屋久島の新たな森林環境教育の場として活用。一般利用者の方々に観てもらい、現地状況については情報提供。（地域関係機関等の連携・協力）

▼ ベース資料等の取組

生立木時の状況、倒伏の原因及び今後の活用へ繋がる基礎資料を作成。また、現地へは、それらに伴う看板等の設置を行い、一般利用者への情報提供等に努め、今後の取組や活用方策について発信することとする。



台風直後の弥生杉倒伏状況

弥生杉の説明看板設置

▼ 地域関係者等との連携・協力を推進

屋久島の教育機関からの要請のみでなく、島外からの様々な依頼へ対応できるように、地域の関係者等と連携・協力し、現地での森林環境教育を推進する。また、屋久島高校との連携強化に努める方策へも取り組むこととする。



上空からの倒伏状況

整備状況

森林生態系の適切な保護・保全

屋久島では、各種のモニタリング調査を実施しているが、気象モニタリング（雨量・気温）及び湿原保全対策については、例年、主要事項として実施。気象モニタリングでは、主要地点に観測機器を設置し、遺産地域の森林植生をはじめとする自然環境に与える影響を把握するためのデータ収集を実施。湿原においては、地下水位低下と乾燥化など十数年単位で湿原の遷移が顕著化しており、浸食がすすむ区域では堰の設置など浸食防止対策等を関係機関と連携し順応的管理に取り組む。

▼ 気象データベース化の取組

令和6年度内に全ての箇所にて機器更新を行い、スムーズなデータ収集が可能となったことから、観測データを分かりやすく幅広く情報提供できるようにデータベース化するなど、これまでの取組を更に進める。



雨量計・温度計の設置箇所

▼ 湿原保全対策への取組

令和5年3月に取りまとめられた湿原保全対策を環境省と林野庁で区分し実施している。これまで、丸太柵や堰を設置し浸食防止対策等を実施しており、引き続き湿原内の地下水位の状況や植生回復など、各種対策による保護・保全に努める。



雨量データ収集の様子



R6 堰設置の状況



植生調査の状況

2025年04月02日（水曜日）令和7年度 グリーン・サポート・スタッフ（GSS）活動開始

森林生態系保護地域の貴重な価値ある自然を将来にわたって維持していくため、GSSによる森林パトロールを週2日、2名体制で実施します。

大株歩道など島内で管理されている登山道において、植生や著名木等の状況把握、登山者へのマナー指導、危険箇所の表示、簡単な歩道修理などを行いますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

登山者の皆様へ

屋久島の貴重な植物を守るため、

- ・ 樹皮を剥ぐ、採取するといった植物を傷つける行為はやめましょう。
- ・ 歩道から外れないよう注意しましょう。
- ・ ごみは必ず持ち帰りましょう。
- ・ トイレは決まった場所でしましょう。
- ・ 携帯トイレの利用をお願いします。

なお、植物等の異変を発見した場合は当保全センターへご連絡をお願いいたします。



植物の状況把握(アセビ) (左)、危険箇所の表示(落石) (中)、簡易な歩道修理 (右)

2025年04月01日（火曜日）4月1日付け人の動き

● 4月1日付け人の動き

【当保全センターへの転入】

- ・ 所長 下村 治雄（宮崎森林管理署次長）
- ・ 自然再生指導官 奥村 克
（屋久島森林生態系保全センター所長）

【他署等へ転出】

- ・ 宮崎森林管理署 川畑 一歩
（屋久島森林生態系保全センター主事）

● 着任のあいさつ

所長 下村 治雄

4月1日付けで屋久島森林生態系保全センターに赴任しました下村 治雄です。

屋久島での勤務は3となり、前回の勤務から25年ぶりに帰ってまいりました。

赴任直前の3月27日には、エンジン機器の故障で昨年10月から運休していたフェリー屋久島2も運航再開し、赴任当日は快晴に恵まれるなど、ひょっとして屋久島に歓迎されているのかも...と勝手に喜んでいましたが、フェリーが島に近づくにつれ、甲板から見える洋上アルプスが眼の前に迫ってきた時は、しぜんと畏敬の念が湧いてきて気が引き締まる思いがしました。

久しぶりに訪れた屋久島では、インバウンド観光客の多さに驚き、世界自然遺産としての海外での評価が高まっていることを実感しました。



世界遺産の登録理由のひとつに、この小さな島で亜熱帯から冷温帯性の植物を連続的に見ることができ点があります。しかし、これを脅かすヤクシカによる下層植物の食害や外来種の侵入・定着、気候変動や登山利用者の増加による影響など直ぐに解決できない課題も多く、当保全センターとしても引き続き関係機関と連携して対策に取り組むこととしています。今年度は特に、「森林生態系の適切な保護・保全（気象モニタリング及び湿原保全対策）」、「森林環境教育等の場の整備（弥生杉倒伏後の整備）」を二つの柱として取り組むこととしています。

さて、屋久島の世界自然遺産は登録から今年で

32年目を迎えました。このことは、屋久島町をはじめとした関係者の皆様のご尽力によるものであり、心より敬意を表するとともに、この貴重な屋久島の自然を次の世代に引き継いでいくために、当保全センターがなすべき役割をしっかりと果たしていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

最後になりますが、島内には白谷雲水峡やヤクスギランドなど、気軽に屋久島の自然を体感できる施設が複数あります。まだ屋久島に足を踏み入れたことがない方は、是非一度おいでください。苔むした悠久の森が皆様を歓迎してくれるはずですよ。

2025年04月 令和7年度の業務計画

●森林生態系保護

1. 職員とグリーン・サポート・スタッフ（GSS）による森林生態系保護地域の森林パトロール
2. 屋久島世界遺産地域科学委員会等への参画
3. 森林生態系モニタリング（東部地域の植生垂直分布、湿原等）
4. 気象モニタリング（雨量、気温等）
5. ヤクシカ被害対策（植生保護柵管理、有害鳥獣捕獲等）

●普及教育及び森林空間総合利用等

1. 森林環境教育、「屋久島森の塾」等の実施
2. 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会等への助言・指導

●その他

1. 関係機関等との連携・協力
2. 学術調査研究等に係る入林手続き
3. 「洋上アルプス」として当保全センターの取組等をホームページで広報
4. 「年報」の発行



森林パトロール（左）、植生保護柵管理（中）、森林環境教育（右）